

1947年開校 桃山中80周年

多彩な人材輩出、地元の発展支える

「理想の学園を建設せん」

今も息づく初代・熊本校長の遺訓



初代・熊本校長

桃山中（糸本康浩校長）は今年度、前身となる新川中と鶴ノ島中が開校した1947年から数えて80周年の節目を迎えた。48年11月の新校舎完成と同時に両校を統合して桃山中が誕生。宇部市中心部から海岸沿いの工業地帯までを見晴らせる桃山台の中腹に建つ白亜の学びやは、多くの文化人や経済人を輩出し、地元の発展を支えてきた。

校訓

- 一、日新日日新
- 二、美の創造
- 三、世界の拡大

桃山中の校舎建設に当たり、熊本隆治初代校長は校区内をくまなく歩き、候補地と定めたのが現在の桃山台。熊本校長は「我々には遠大な夢がある」で始まり「理想の学園 桃中を建設せん」と結んだ「建設の譜」をしたためた。その中の「日に新たに日目に新たに」の一節は、校訓や校歌にも生かされている。今も直筆の書が校長室、レブリカが各教室に掲げられている。また、「生徒に文化芸術に触れる機会を」との意向で、古代ギリシャ建築風の円形劇場のオープンステージの建設に尽力。開校から2年後に完成したステージは、桜の下での入学式や生

徒集会、文化祭の発表などさまざまな行事に利用され、多くの卒業生が懐かしく思い出す学校のシンボルとなっている。

文化・芸術教育を重んじる校風はその後受け継がれ、敷地内のあちこちに生徒たちが作った彫像が建つ。中でも庄巻は正面玄関近くに設置されているプロンズ像「群像」だ。66年度の卒業生が当時の美術科教員の指導で制作したもので、地面にうずくまったり空を見上げたりする16人の中学生の像が配されている。

地域活動に自主的参加

学校経営方針の柱の一つに「地域と共に創るハッピーな桃山中学校区」がある。その方針の下、生徒会が中心となって地域でのボランティア活動を活性化。ランティア活動を活用した「ハッピー桃太郎運動」は、桜の下での入学式や生

動やイベントの手伝いなど、地域のさまざまな行事に自主的に参加している。運営委員会のメンバーが小・中一貫教育の対象である新川小、小羽山小に出向き、正門前に立って登校する児童に「おはよう」と声を掛ける「小・中合同あいさつ運動」は、児童の保護者たちからも喜ばれている。

県指定校として キャリア教育推進

県は今年度、公立小・中学校を対象に古里の山口の地域づくりに主体的に参画しようとする人材を育成する「あこがれの連鎖で紡ぐキャリア教育推進事業」をスタートさせた。同校は市内で唯一、同事業推進校の指定を受け、主に2年生が宇部工高や地域企業などと

校歌

作詞 脇 太一
作曲 本広淳助

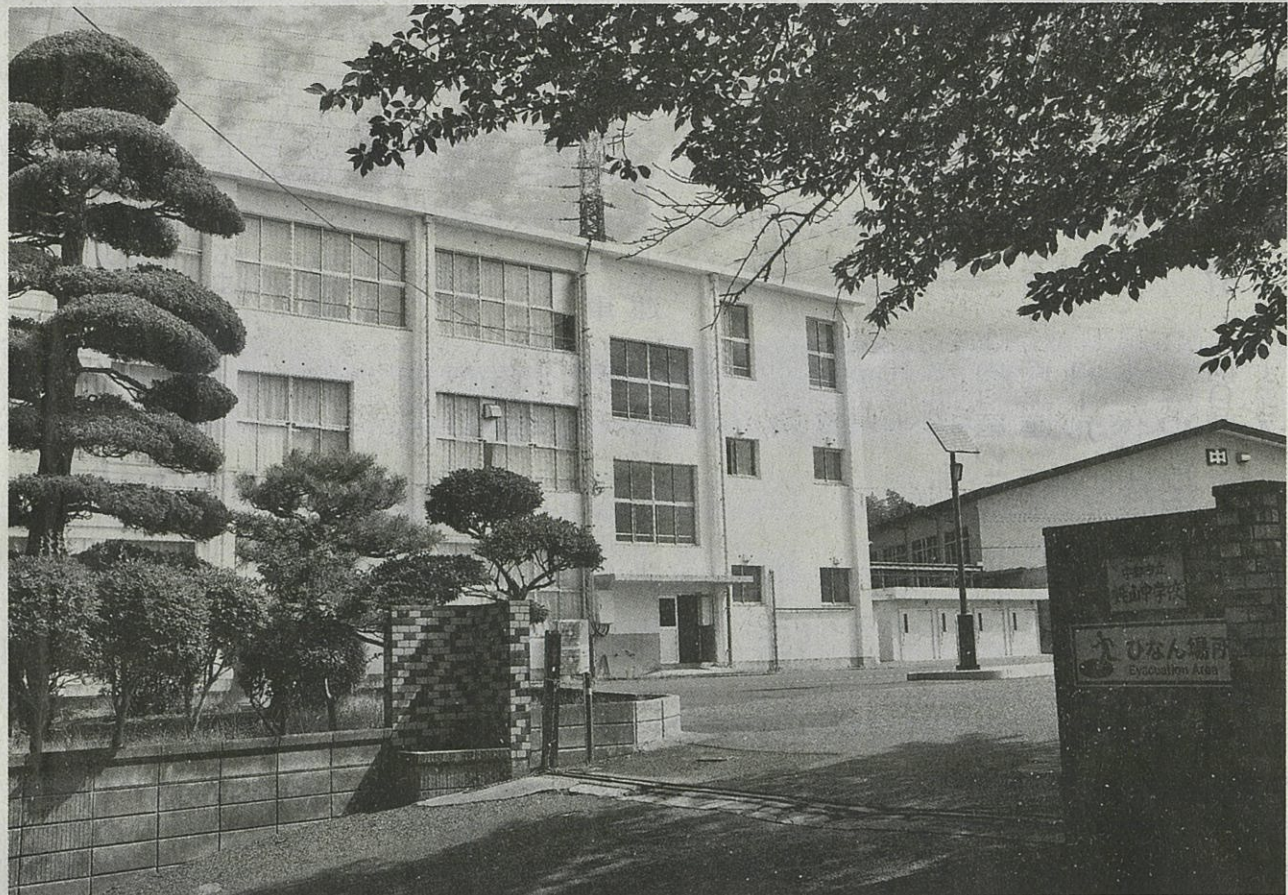
朝風澄みて 陽に匂う
桃山台の 春秋を
希望は燃えて はつらつと
真理を学ぶ 若き友
われら桃山 中学に
見よ 向学の誓いあり

二

伝統ほこる 学園に
みずから努め いそしみて
文化を花と ひらきつつ
礼節かおる 清きまゆ
われら桃山 中学に
見よ 友愛の誠あり

三

輝く瀬戸の 新潮に
知性を玉と みがきつつ
理想のつばさ 羽ばたきて
のびゆく生命 日に新た
われら桃山 中学に
見よ 栄光の未来あり



小・中合同あいさつ運動



円形劇場型のオープンステージ